



## ■ 学校教育目標

### 『自ら・共に拓く堺小っ子』

- 進んで考える子
- 思いやりのある子
- 心と体をきたえる子

発行日：令和4年11月25日

## 教師も学ぶ姿勢を 得たものを子供たちに 質の向上に向けて

朝夕の冷気に冬の訪れが感じられるこの頃となりました。

そんな中、心配されるのは、いつでも、誰もが、感染リスクが高い状況にある新型コロナの感染状況です。本校においては、引き続き、「堺小コロナ対応ガイド」に基づき、感染防止行動の徹底と取組を進めていきますが、ご家庭でも、風邪症状のある場合、登校を控える、混雑した場所への外出を控える

るなど、感染拡大につながる行動を控えていただきますよう、引き続きお願い申し上げます。

さて、様々な分野で予測できない非連続な変化が起こることが考えられるこれからの社会では、教師や学校はそのような変化に背を向けるのではなく、前向きに受け止めていくことが必要であると強く感じているところです。ですから、求められる知識や技能が変わっていくことを我々教師自身が意識して、継続的に新しい知識・技術を学び続けていくことが必要です。そこで、学校便りでもお伝えしていますが、北海道教育大学旭川分校の山中准教授や北海道文教大学の石垣教授、日高教育局の堀義務班指導主査などを講師としてお迎えし、これから求められる教育に関わってのご指導ご助言をいただいているところです。また、先生方は、子供たちへ質の高い教育を提供できるよう、町内はもちろん、道内外の研究会、研修会に積極的に参加し研鑽を深めているところでもあります。時々、担任の先生が出張でいなかったという話を子供から聞くことがあろうかと思いますが、ご理解いただければと思います。

実は、私も、先日、「浦河町教育先進地教職員研修」で秋田県大館市に2泊3日の日程で行ってきました。秋田県は全国学力・学習状況調査で全国トップですが、大館市はその中でも上位に位置しています。その大館市も、十数年前は、人口減で消滅の恐れのある「消滅可能性都市」の典型と言われていたそうです。そんな中よく耳にしたのが、「大館には何もない」という話だったそうで、大館市の教育長は「これは教育の責任だ」と思ったとのこと。そこで、試行錯誤を繰り返しながら、「大館盆地を学舎（まなびや）に、市民一人一人を先生に」をコンセプトに、ふるさとの基盤上に自らの進路を描かせ、自立の気概と能力を備えた「未来大館市民」を育成すべく「ふるさとキャリア教育」を進めていきました。また、その実現に向けて、「講義型一斉授業」を禁止し、「高い反応力を備えた児童生徒の学び合い」を、「一人たりとも置き去りにしない授業」を「大館型授業（響学）」として展開するとともに、「仲間を置き去りにしない学習集団づくり」に努めてきたとのこと。そして、それらの取組が浸透していくことによって、自己肯定感や自己有用感が高まり、学力の向上にもつながっていったという旨の説明を受けるとともに、それらの具現化された授業も観てきました。

私も学んできたことを先生方をはじめ、保護者、地域の方々と共有し、今後の堺小の学校経営に生かしていけるところはしっかりと生かしていきたいと考えています。